

1 管内の概要（H31.3）

人口	95,496 人
保護率	0.93 %



3 実施方法について

実施方法	委託（単年度契約、随意契約）
事業費	1,366千円（平成30年度・生活困窮者自立支援事業費） 684千円（平成30年度・生活保護法等施行事務費）
理由（委託）	○就労準備支援事業は、対象者の特性及び地域の雇用状況等の特性を把握した上で専門的知識や経験が必要である。 ○このため、これら知識に精通し、かつ下都賀福祉事務所管内で業務実施可能な者が一般社団法人とちぎ青少年自立援助センターであることから、委託により事業を実施。
事業概要	就労準備支援員としてキャリアコンサルタント等の有資格者を1名配置。下記のような支援メニューとともにボランティア体験等を併せて実施することにより、就労への意欲を高める。 実施している支援メニュー例 ○「いつここ就活講座」 「厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）」「職業理解」「ビジネスマナー」「応募書類作成・面接対策」の講座受講により、就職に向けて実践的な知識やスキルの習得を行う。 ○「ほっとプレイス」 自分が自分らしくいられる居場所プログラム。参加者との会話やゲーム等の交流により、人間関係の形成やコミュニケーション力の向上を図る。
その他特記事項	○居宅での支援を原則とするが、必要に応じて合宿方式での支援も可能とした。

2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当（件）	一月当たり	11.4
プラン作成件数人口10万人当（件）	一月当たり	4.0
就労支援対象者数人口10万人当（件）	一月当たり	2.2
就労・増収率（%）		76.9

4 事業実績（H30年度）

利用者	福祉就労へのつなぎ
2人（被保護者1人、生活困窮者1人）	0人

5 事業実施のポイント ～ボランティア体験を通じて～

Point

ボランティア体験等による社会とのつながりを通じて、意欲と自信の回復につなげる。



VERY
GOOD
LOCAL
とちぎ

- （ボランティア体験を通じて社会性を身に付けていった事例）
- 就労に関して強い抵抗感があったため、「いつここ就活講座」で仕事等への知識を習得させるとともに、「ほっとプレイス」プログラムに参加させ、複数の参加者との交流を図るなど抵抗感の払拭に努めた。
 - 活動の過程でボランティア活動に参加することとなるが、その施設職員の勧めもあり音楽グループに参加したところ、たまたま施設での演奏会で、自分の演奏で喜ぶ入所者の姿を見たことで感動を得て、社会参加への不安感が徐々に薄れていった。
 - 課題点も多いので就労は実現していないが、現在は無給のボランティアではなく、就労をしたいとの意欲が強くなってきている。

6 取り組んで良かったこと

○利用者の課題点が、ふとした要因で解きほぐされていくことがあると分かった。また、支援メニュー等の利用によって、利用者により自己有用感や就労意欲の高まりなどの効果があった。これらにより、利用者が就労に向けての課題を克服し、就労自立に結びついた事例もあった。